

図のように身長を測る



色によりおおよその体重が示されている。

5) テキサス・テンプル大学シミュレーションセンター報告



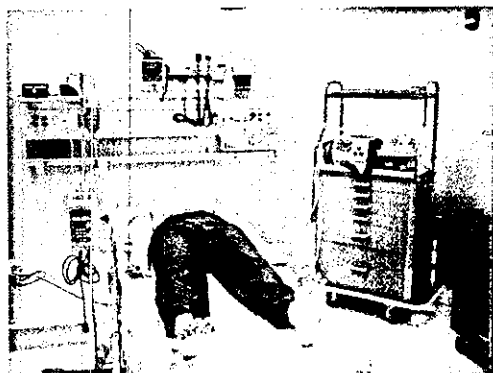
テキサスにあるテンプル大学の、臨床シミュレーションセンターを見学した。9800平方フィートの広範囲なキャンパス全体は、ヘルスケア専門家が現実的な臨床の経験をシミュレート出来るように設計されている。

設備は

- ・ 2台の救急車
- ・ ナースステーション
- ・ 2室の救急処置室
- ・ 2室の集中治療室
- ・ 手術前の手洗い所
- ・ シミュレーション調整室
- ・ 手術室

などがある。

建物の1階は2つのセクションに分かれていて、2階はオフィスと会議室がおかれている。1つのセクションは歯科医院、他のセクションは救急車入り口、救急処置室および外傷、集中治療室を備えた病院がある。これらの設備は看護を含む保健学プログラムのすべてに統合された臨床実習を供給する。

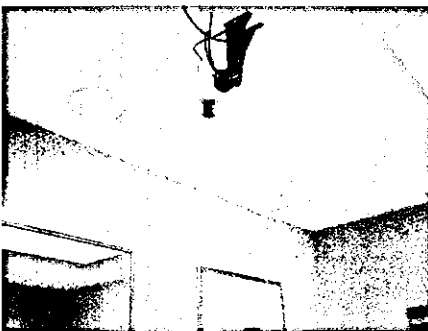


人形は、すべて SIM MAN が使用されている。シミュレーションルームには、ガス（酸素・真空・空気）や、救急カート、除細動機も用意されていて、病室さながらの現場が作られている。



シミュレーション調整室では、停電を想定するための、スイッチがあり、ボタンひとつで電源を落とすことができ、生徒が停電時にどれだけ対応できるかなどの訓練も出来る。

シミュレーション調整室



すべてのシミュレーションルームには、カメラおよびマイクロホンが完備されていて、生徒の活動などが、観察され記憶することができる。シミュレーターは、シミュレーション調整室からコントロールできる。

室内モニターカメラ



建物の外には、広い広場や、テニスコートなどがあり、モバイルシムマンを実際に寝かせることで、野外トレーニングも実施可能である。

屋外のテニスコート



薬剤や使い捨ての資器材など、ほとんどのものが沢山ストックされている。

資器材など

これらの建物は、全体が病院に見立てて作られている。それは、実際に現場に出た時に、迅速に対応できる能力を養成するために作られた。たしかに建物が病院のようなので、程よい緊張感なども伝わり、臨場感をよりリアルに感じられた。その他、シミュレーションルームをビデオ撮りするの、後で自分をみて復習することに役立っている。シミュレーションルームのSIM MANは、シミュレーション調整室で全て行っているの、生徒は本当に傷病者を観察することに真剣になれる。人形の病態を横にいる先生の顔色を伺いながら行わない点も臨場感をさらに感じさせるものだった。



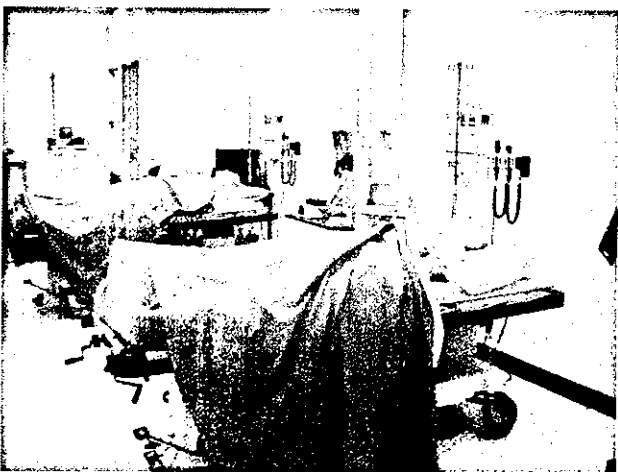
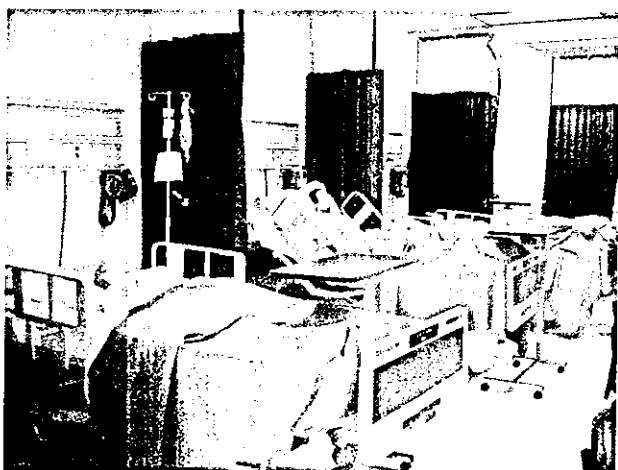
座学教室

スキルシミュレーション教室には、面白い工夫がほどこしてあり、教師が、前で行う試技を生徒が上の角度から見やすいように、天井に鏡が設置してあり、それに写しだされたものを生徒が見られるようになっていた。とてもローコストで考えられたものであった。

以上が、テンプル大学のシミュレーションセンターである。生徒の学習には、パソコンで行う、レールダル社の「マイクロ シム」が使用されていた。SIM MAN を使用しての学習の他にも、そのような教材を使用しての復習や、ビデオを撮ったものを使って自分の実習を振り返って確認するなど、救急医療を学ぶ上で、座学の他に病院外の実習がとても充実していた。

7)マックラーレン大学シミュレーションセンター報告

9月21日(現地時間)、McLennan Community College を訪問した。McLennan Community College では、3年生の看護教育と Paramedic 教育を行っている。このシミュレーションセンターは主に看護教育に使用されている。シミュレーションセンターにはナーシングケアの訓練に用いるシミュレーション人形が4体、患者観察の訓練に用いる高度シミュレーション人形(SimMan)が3体ある。McLennan Community College では2年間の看護教育を行っているが、1年次の方がシミュレーションセンターを使つての実技時間が多いそうである。





McLennan Community College では、1週間に200人のナースがこのシミュレーションセンターを使用して授業を行っているそうである。1クラスの人数は約60人で患者をグループで受けもち、観察や処置（静脈路確保など）、バイタル測定などを行っている。それぞれの手技だけでなく、簡単なシナリオを用いて流れをつかむシミュレーションも行われている。また、患者の腕に巻かれているタグは、患者の名前や生年月日だけでなく、アレルギーの出る薬剤の名称も書かれていた。

私自身が見学させてもらって、国士舘大学スポーツ医科学科の3階実習室に非常に良く似ていると感じた。設備（導入されているシミュレーション人形）はほとんど変わらないので、ちょっとした工夫でもっともっとリアリティを出すことが可能なのではないかと思った。シミュレーション人形を実際の患者として接したり、処置をしたりすることは難しいのですが、少しでも多くの環境や状況を現場に似せることでリアリティを出すことができる。